

18+

内山亜紀

あんどろトリオ 完全復刻版



総監修 稀見理都

知られざる巨匠・内山亜紀が
1980年代前半に
『週刊少年チャンピオン』で
連載していた伝説の作品
『あんどろトリオ』の
完全復刻版

貴重資料も
多数収録！

萌えアートの始祖
内山亜紀 からの贈り物
もうひとつの
「非現実の王国」

- ♥ 雑誌連載時の最も美しかった状態を
可能なかぎり再現！
- ♥ 発掘された幻のデビュー作
インタビュー
- ♥ 手塚るみ子、愛☆まどんな
特別寄稿
- 千之ナイフ、きたがわ翔、みやすのんき
山本直樹、とりみき、会田誠

定価4950円 本体4500円⑩

太田出版

18+

内山亜紀

あんどろとりオ 完全復刻版

総監修 稀見理都



AKI UCHAYAMA



お試し読み



本書は成年コミックです。
18歳未満の方は閲覧をご遠慮ください。

あな
たは
本
当
の
内
山
亜
紀
を
ま
だ
な
に
も
知
ら
な
い

おどろトリオ

完全復刻版

内山亜紀

総監修 稀見理都



太田出版

内山亜紀は成年漫画家の中でもトップレベルの多作家。最盛期にはアシスタントなしで250ページ以上の原稿を描いていた。今までに137冊の単行本（新装版を含む）を出版している。



CONTENTS

あんどろトリオ 完全復刻版 目次

巻頭グラフ 02

『週刊少年チャンピオン』表紙ヒストリー…… 06 / 激撮!! あんどろシヨット…… 08 / 「あそこ・アソコ・あそこ」…… 09 / 秋田書店版『あんどろトリオ』全4巻の表紙一覧…… 10

あんどろトリオ

●あんどろトリオ1

つかさのパンツにオレンジケイホーの巻…… 11 / ネコのおうちはつかさのパンツの巻…… 27 / 亜紀のあんどろマンガ道場…… 40 / 男はみんなよわむしネの巻…… 41 / 超革命的オムツの巻…… 55 / つかさのパンツに強敵の巻…… 71 / 雪ん子つかさの巻…… 85 / 女の子はSFだの巻…… 99 / 亜紀の質問コーナー…… 114 / おとぎの国へ PART1の巻…… 115 / おとぎの国へ PART2の巻…… 131 / 紀ちゃんの赤ちゃんコーナー…… 146 / 流行性つかさ菌の巻…… 147 / 亜紀をとりまくマンガ家集団…… 162

●あんどろトリオ2

忘れられないつかさのパンツ! の巻…… 163 / 陽気なあんどろ教室!! の巻…… 177 / つかさの突撃インタビュー…… 192 / 純粋なるお勉強! の巻…… 193 / いけない理科の実験! の巻…… 209 / CM出演は楽しいナ!! の巻…… 225 / あんどろあみだゲーム…… 238 / 世紀のタッグマッチ! の巻…… 239 / コーフンの魔球合戦! の巻…… 253 / つかさのプクプクおフロ教室①…… 268 / さらわれたパンツ! の巻…… 269 / つかさのプクプクおフロ教室②…… 284 / 不幸のオムツ!! の巻…… 285 / ジャッキー・つかさ! の巻…… 301 / 少年がめざめる時!! の巻…… 317 / 内山亜紀と…… パワフルマンガ家シンドローム…… 332 / 大人の女性になりたいの! の巻…… 333 / 私のデビュー誌『レモンビープル』千之ナイフ…… 348

●あんどろトリオ3

オネシヨに妖怪! の巻…… 349 / あんどろ沼の怪! の巻…… 363 / ふあんでくボーズ集…… 378 / 修行の末に……! の巻…… 379 / お竜お姉さま登場!! の巻…… 389 / ラブリーポーズ集…… 404 / カガミよ、カガミ! の巻…… 405 / ネコふんじやった! の巻…… 419 / ミスセタは……! の巻…… 433 / つかさを愛した宇宙人!! の巻…… 445 / 禁断の宇宙の巻 PART1…… 457 / 禁断の宇宙の巻 PART2…… 473 / セクシーポーズ集…… 484 / 禁断の宇宙の巻 PART3…… 485 / 改心してネ♡の巻…… 501 / 吸血鬼ドロキュラ!! の巻…… 515 / オムツの性格占い…… 530 / **ロリコンという言葉を知った** **きたがわ翔**…… 536

あんどうトリオ『週刊少年チャンピオン』表紙ヒストリー

(1981年50号～1982年46号)



1981

11月20日(50号)

読切版「あんどうトリオ」掲載される

1982

1月

内山亜紀、秋田書店の新年会で手塚治虫と初対面

1月1日(1・2号)

「あんどうトリオ」短期集中連載の予定で連載開始

■事件…ホテルニュージャパン火災(2月)

2月5日(8号)

はじめての2色カラー 思わぬ人気で連載継続決定!

■アニメ…「戦闘メカザブングル」放送開始(2月)

2月19日(10号)

表紙一面をつかさちゃんが独占。初の巻頭カラー。

■音楽…小泉今日子デビュー(3月)

■音楽…中森明菜デビュー(5月)

7月9日(30号)

手塚治虫のロリコン・ヒロイック・ファンタジー「プライム・ローズ」の連載開始

■映画…伝説巨人イデオン劇場版公開(7月)

10月29日(46号)

「あんどうトリオ」の連載終了。約11ヶ月の連載期間だった。

■野球…西武ライオンズ日本一(10月)



『あんどろトリオ』は、『週刊少年チャンピオン』（秋田書店）の1981年50号（11月20日号）に読切として掲載された後、1982年1・2合併号（1月1日号）から正式連載としてスタートし、同年の46号（10月29日号）の連載終了まで、計44回分の話が掲載された。多くの方がもう少し長い期間連載していたと感じているかもしれないが、実際は1年に満たない332日の連載期間で終了している。

10号（2月19日号）、13号（3月12号）では、『あんどろトリオ』のヒロイン、つかさちゃんが雑誌の表紙の一面を飾り、8号（2月5日号）では、メインではないが、7人ものつかさちゃんが、当時人気だった水島新司の野球マンガ『ダントツ』の主人公、三郎丸三郎を囲っている表紙が印象的である。

激撮!! あんどろシヨット あんどろトリオと共演したアイドルたち!

80年代初めに起こった空前のアイドルブームには、多くのメディアが注目し、さまざまな特集が企画された。『週刊少年チャンピオン』は、「激撮!! あんどろシヨット」として「あんどろトリオ」とのマンガ&グラビア特集が6週にわたって掲載した。まだデビューしたばかりの新人アイドルとのコラボが中心ではあるが、今考えると、信じられないぐらい豪華メンバーであることは一目瞭然であろう。マンガ&グラビア特集は「あんどろトリオ」後も、別の作品で継続された。



堀ちえみ
(1982年4月2日 [16号])



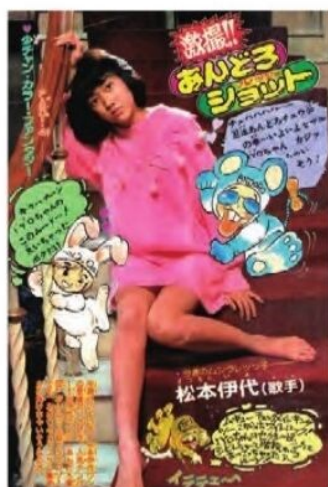
つちやかおり
(1982年3月19日 [14号])



中森明菜
(1982年3月5日 [12号])



中野美紀
(1982年4月9日 [17号])



松本伊代
(1982年3月26日 [15号])



新井薫子
(1982年3月12日 [13号])

特別付録 (アイロンプリント)



当時の雑誌の付録には稀にアイロンプリント・シートが付属することがあった。アイロンプリントとは、アイロンの熱を利用しTシャツなどの生地イラストを転写して使うシートで、ある年代以上の方にとっては懐かしい雑誌付録ではないだろうか。特徴的なのは反転して転写されるので、シートにプリントされている絵は左右逆に描かれているところだ。『週刊少年チャンピオン』の1982年4月9日号(17号)の付録には、全裸姿のつかさちゃんと「ダントツ」の2人のコラボ・アイロンプリント・シートが付属していた。今では考えられない、レアな付録であろう。

「あんどろトリオ」と並行して連載された「あそこ・アソコ・あそこ」

1982年1月5日
週刊少年チャンピオン
新年大增刊号



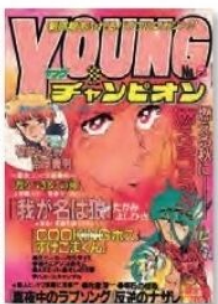
1982年9月5日
ヤングチャンピオン
Vol.5



1982年4月5日
ヤングチャンピオン
Vol.1



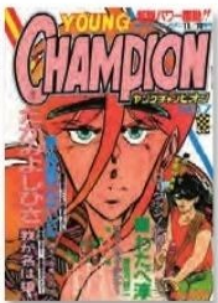
1982年10月5日
ヤングチャンピオン
Vol.6



1982年6月10日
ヤングチャンピオン
Vol.2



1982年11月5日
ヤングチャンピオン
Vol.7



1982年7月5日
ヤングチャンピオン
Vol.3



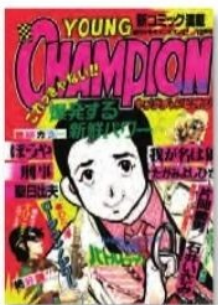
1982年12月5日
ヤングチャンピオン
Vol.8



1982年8月5日
ヤングチャンピオン
Vol.4

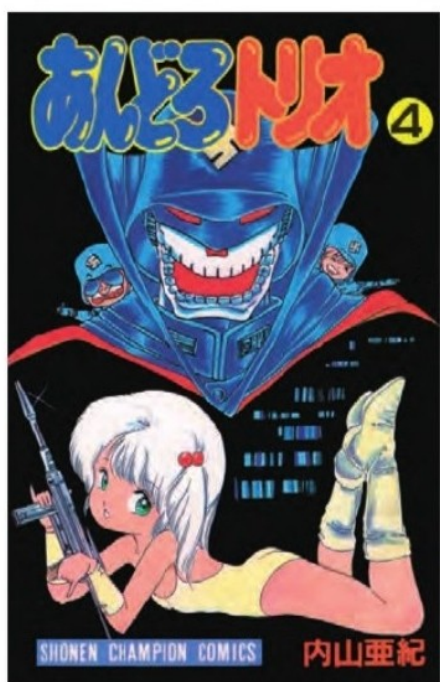
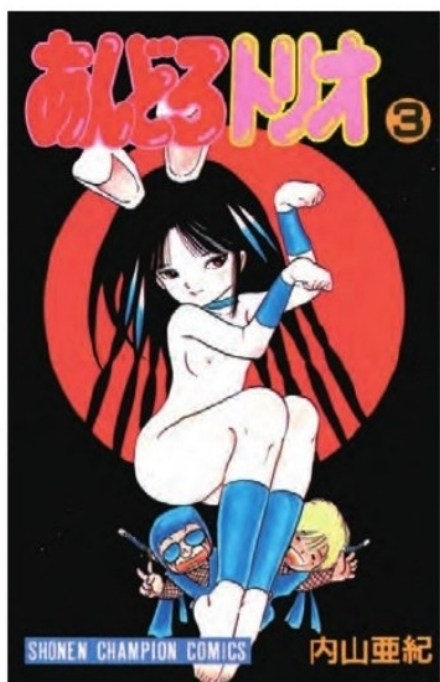


1983年2月10日
ヤングチャンピオン
Vol.9



内山亜紀は『週刊少年チャンピオン』で「あんどろトリオ」の週刊連載をこなしつつ、当時増刊として月刊ペースで発行されていた『ヤングチャンピオン』（※1988年に創刊される「ヤングチャンピオン」と名称は同じだが、直接のつながりはない初期のシリーズ）にて、「あそこ・アソコ・あそこ」の連載も行っていた。新年大增刊に「ばふぶアリス」を発表、その後「あそこ・アソコ・あそこ」の連載を9回行ったが、単行本4巻に収録されたのは、9作全てではなく、その中のVol.1、Vol.4、Vol.6、Vol.7、Vol.9の5作のみである（※残りの4作は、久保書店発行の「ニャンニャンプリンセス」に収録されている）。

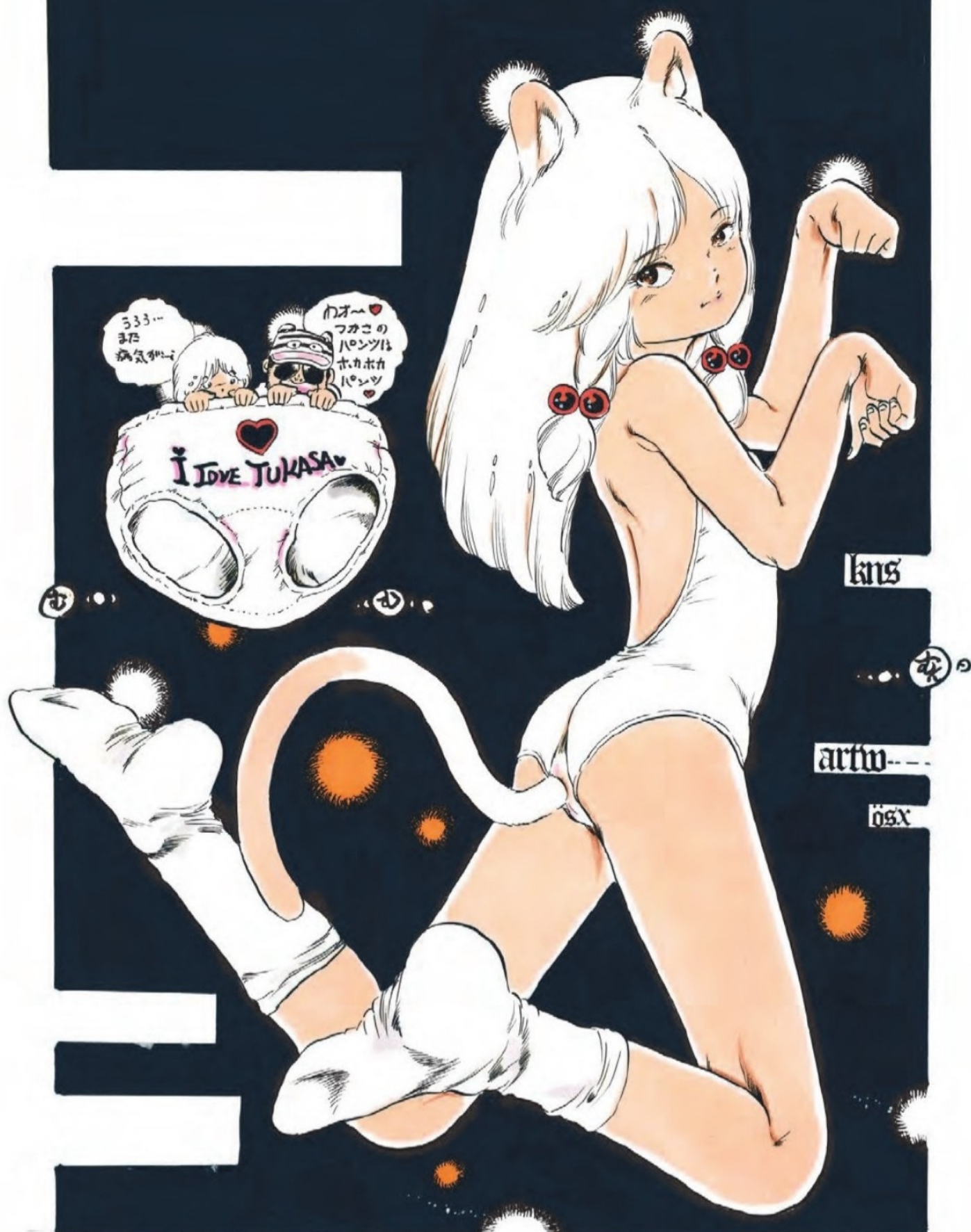
秋田書店版『あんどろトリオ』全4巻の表紙

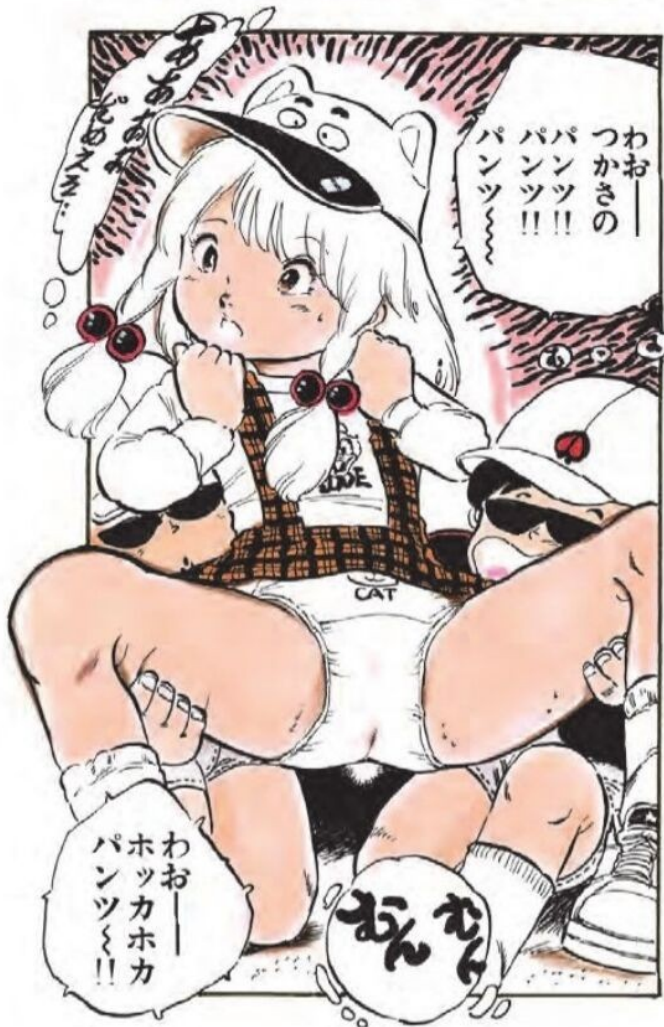


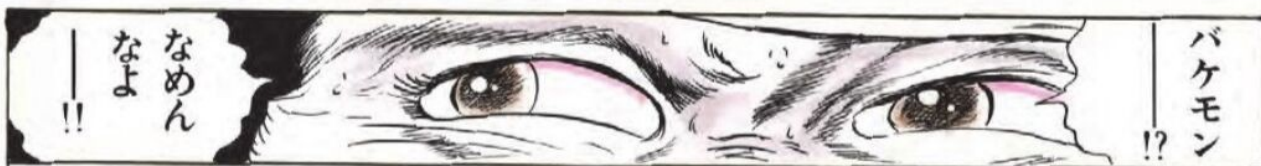
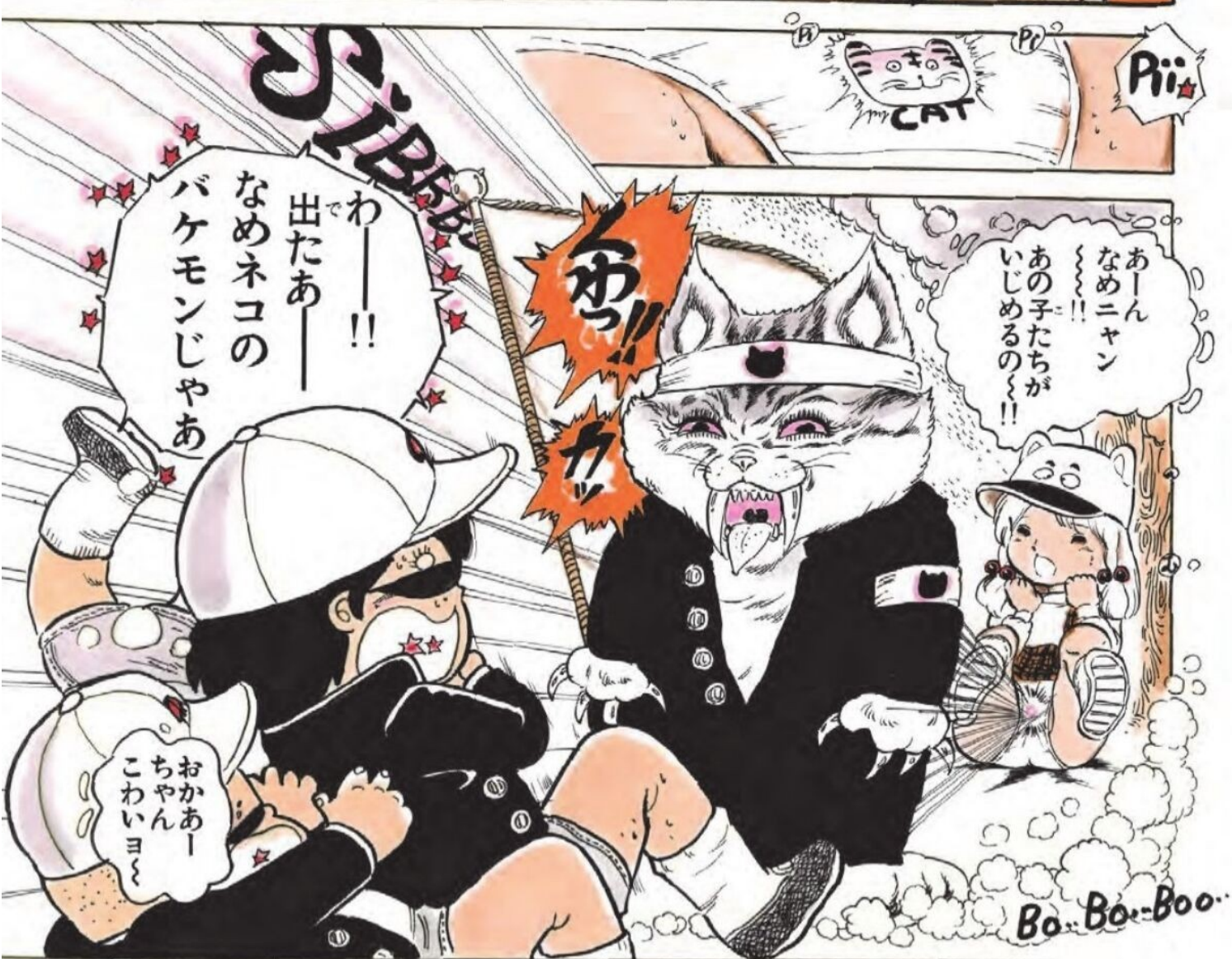
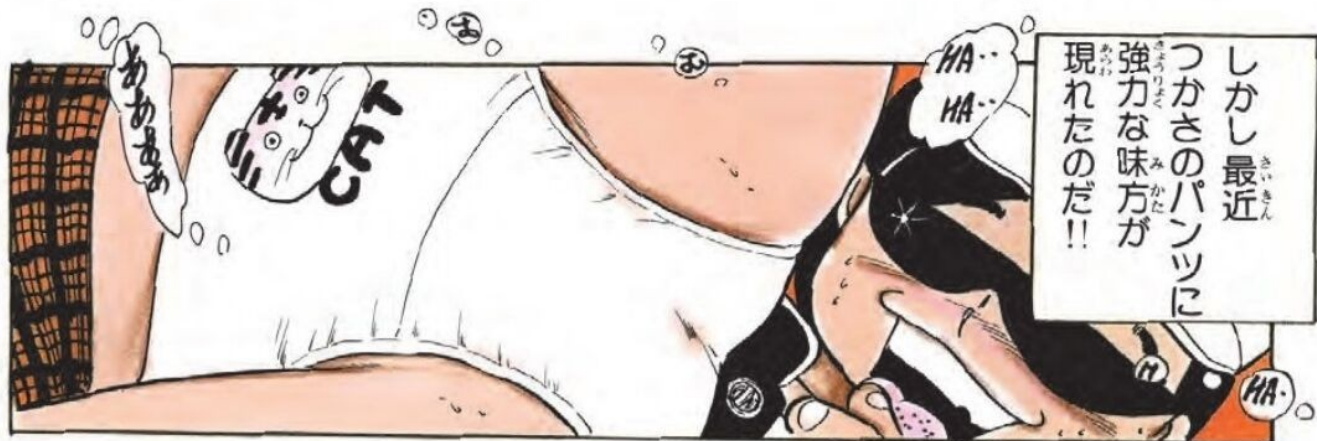
秋田書店版『あんどろトリオ』は、少年チャンピオン・コミックスで全4巻発行されている。連載された44回分の話に加え、読切版として掲載された、「あんどろトリオ」が「つかさちゃんの誕生秘話」と改題されて収録されている。それに加え4巻に、チャンピオン増刊に掲載された「ばふばふアリス」と「あそこ・アソコ・あそこ」の5話分が収録されている。秋田書店版は、もちろん全年齢作品をして発行されたが、後に復刻されたスコラ社版「あんどろトリオ」では成年コミックとして発行され、少年誌で発行された作品が、18禁として復刻された最初のコミックとなった（※後に、上村純子の「いけないルナ先生」が松文館から18禁で復刻され、2例目のコミックとなる）。

「あんどろトリオ」1巻が発売されたのは、連載中の1982年6月19日。2巻も連載中の発売だったが、3巻は連載が終了して1ヶ月後、4巻に至っては連載終了後半年以上経った1983年の7月である。この発売の遅れゆえ、多くの人が「あんどろトリオ」の連載期間が実際より長いと感じているのかもしれない。

ネコのおうちはつかさのパンツの巻



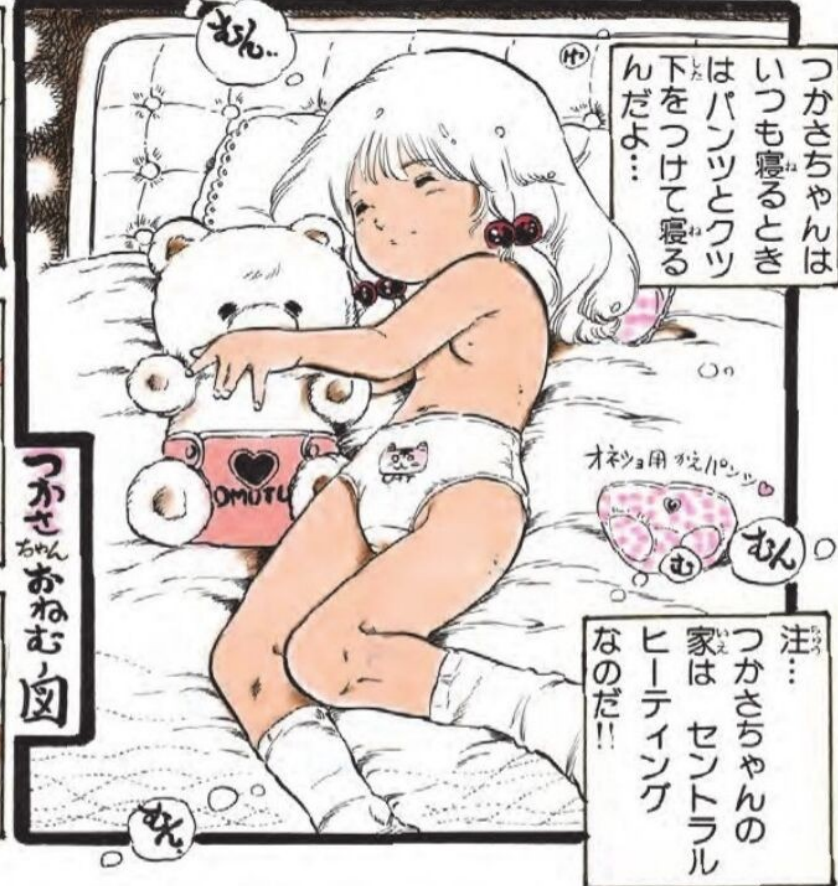






日本の夜です

ところが
とんでもない
事件が
その夜……
つかさの身に
起こった!!



注…
つかさちゃんの
家は セントラル
ヒーティング
なのだ!!

な…なんと
なめニヤンが
かつてに出てきて
つかさの体を
……

なめニヤン変態ノ図



あ…
やつやだあ
そんな
ところから
!!



なめニヤンの
おそましい
アホツラにつかさ
声も出ません……

そうなのです
なめニヤンは
実は…変態ネコ
だったのです



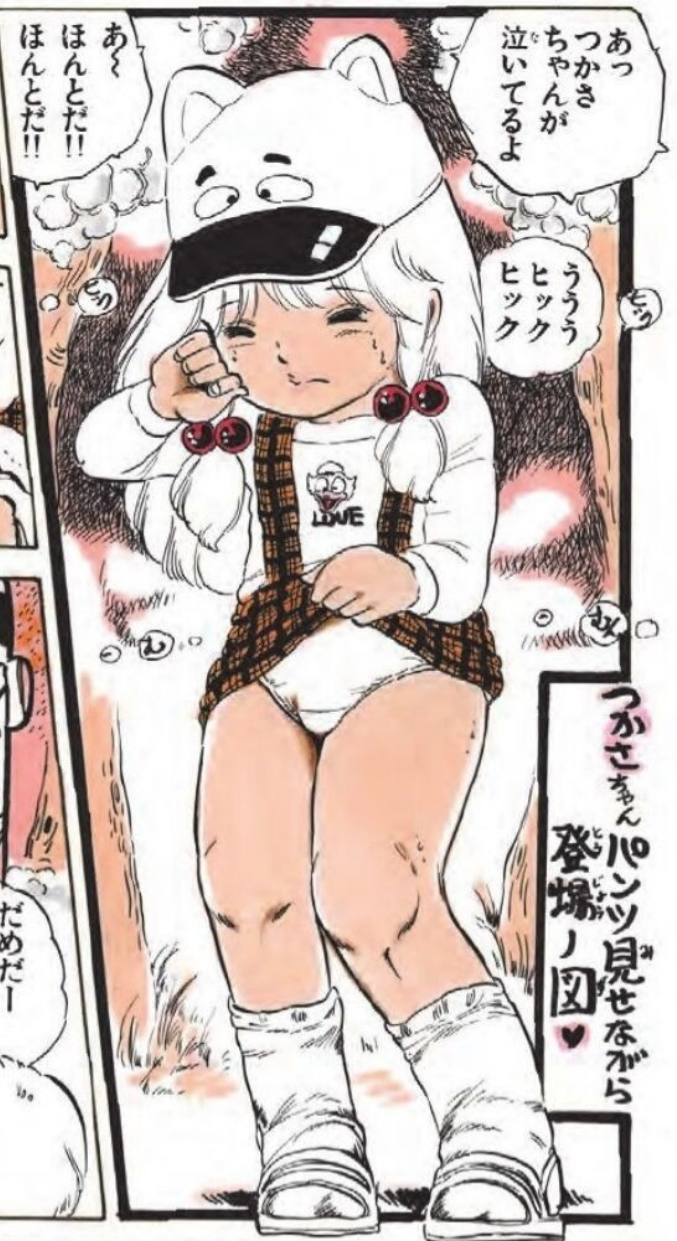
ああ…



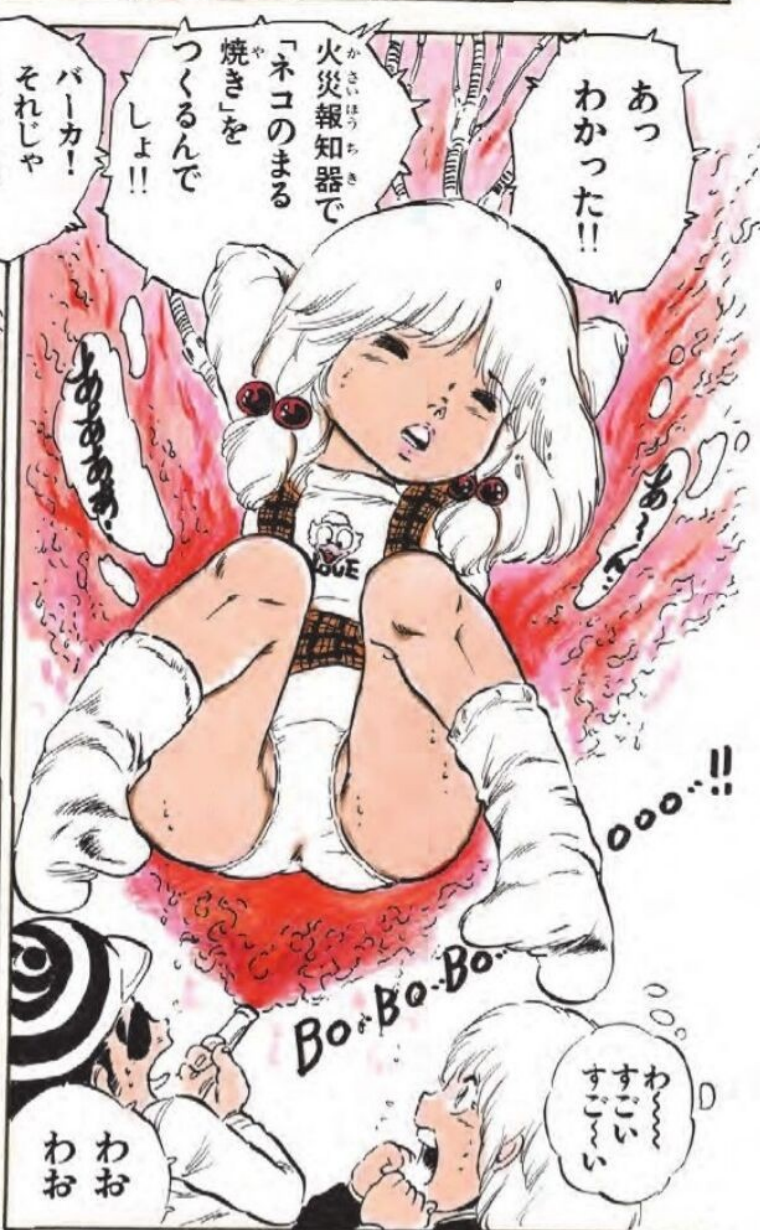
あの日以来
つかさは
変態ネコの
ドレイになり
さがったのです







ビクトリ~!!



絶対絶命の図

あ
センパイ
そつ...その手に
もってるものは
...!!

いやあ
いやあ!!
注射
なんて
いやあ

それじゃ
注射の前に
オシリの検査を
しましょうね



ほら
かくい
な



と...
気を許した
ところで!!

注射
注入
!!

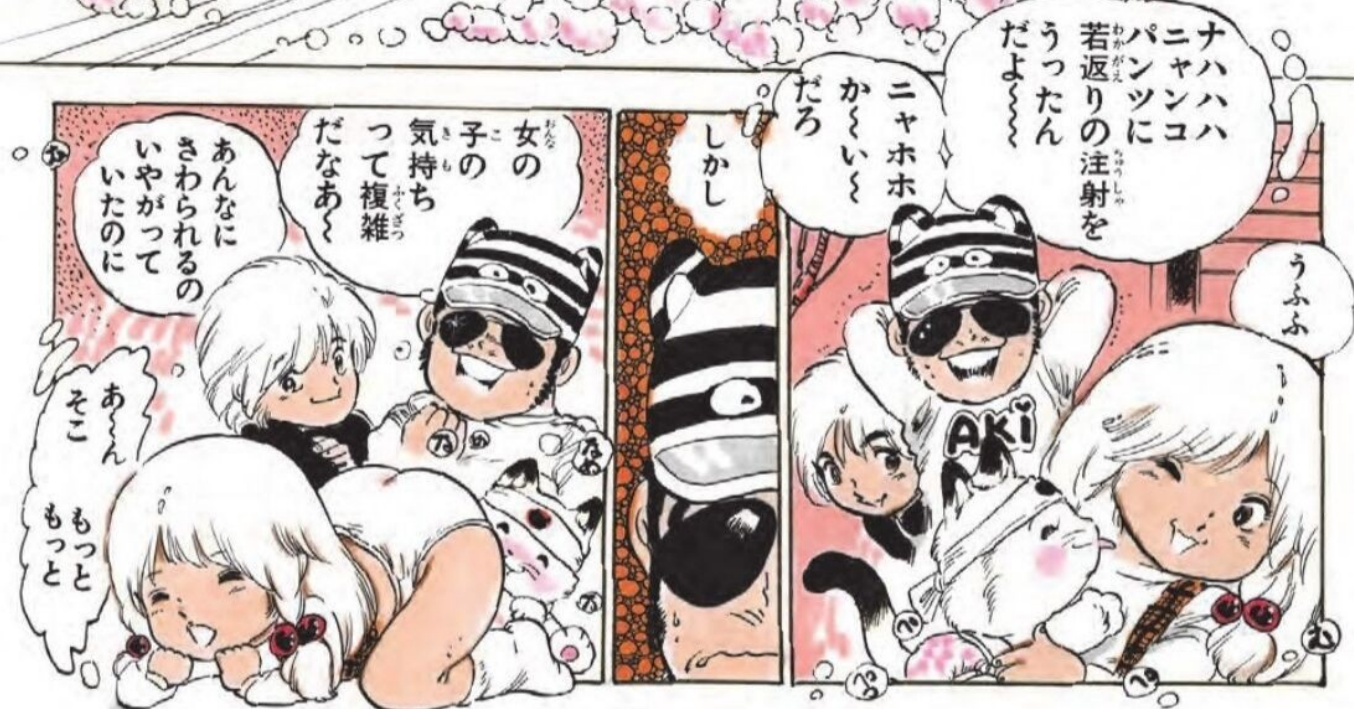
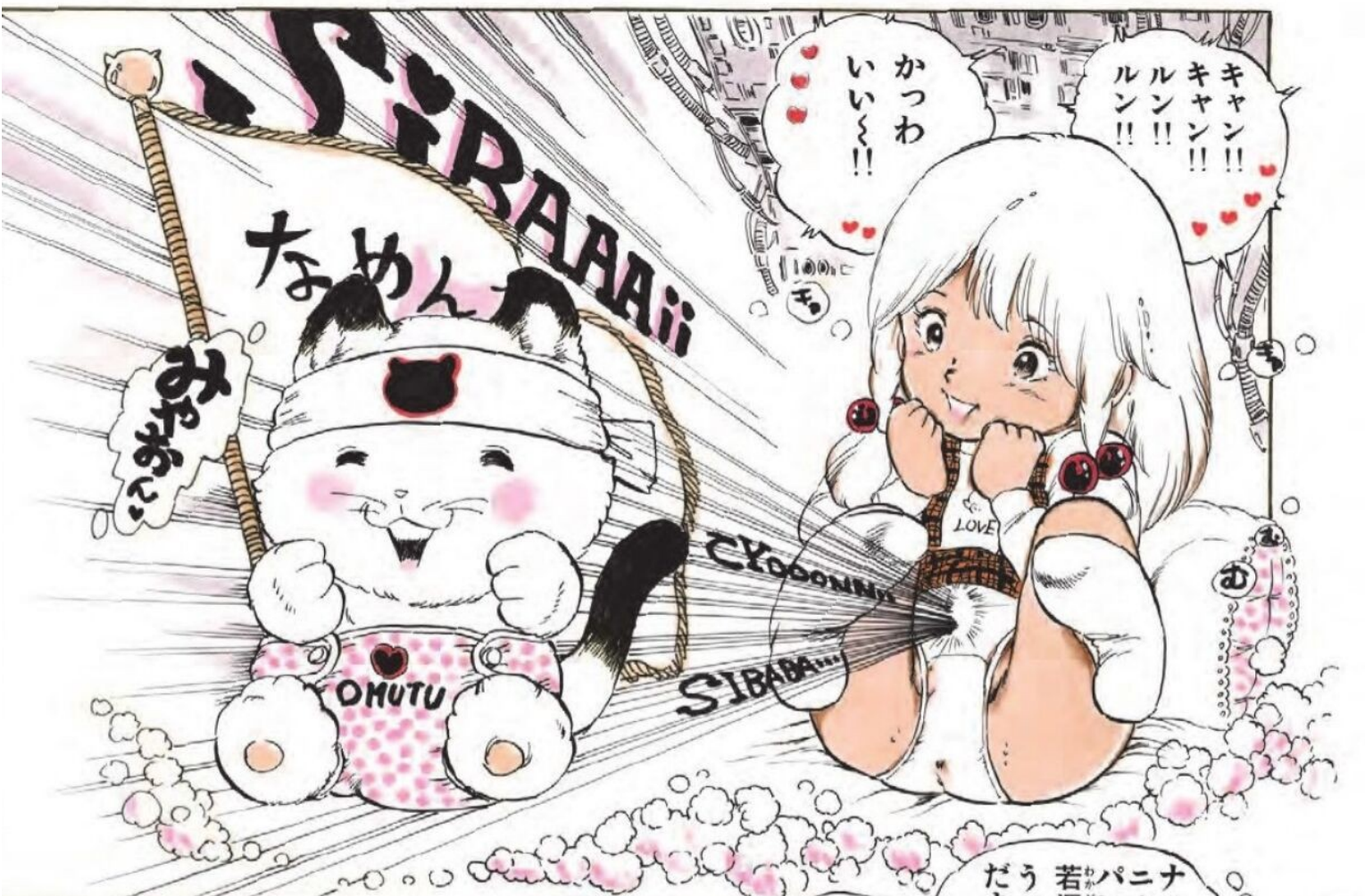
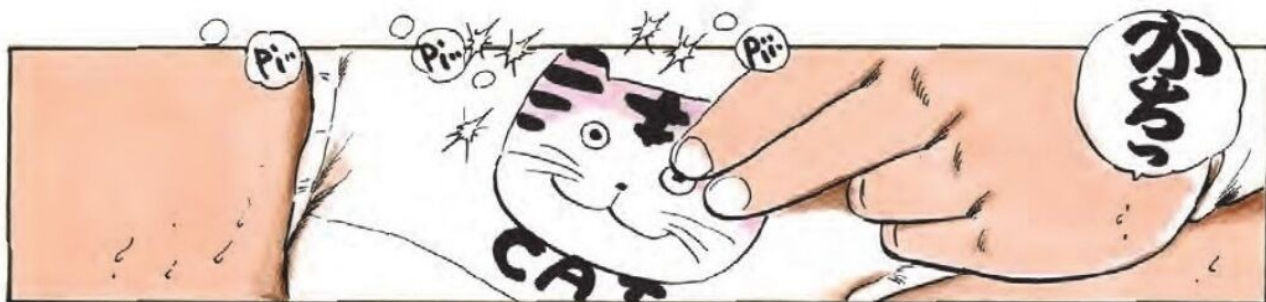


ムホホ この
日のくるのをま
つていたんだ

ムフフ
いたいぞ
いたいぞ

けど...
これがいちばん
なめニヤンに
きくんじゃあ

そうだよ
ガマンするんだ
ガンバるんだ
つかさちゃん!!



内山亜紀完全資料室

内山亜紀をより知るために



あんどろトリオ解説

稀見理都

内山亜紀の「あんどろトリオ」という作品は実に奇妙キテレツな作品だ。令和になった今なお、この作品は衝撃だった、性癖を変えられた、などの思い出話をされることがよくある。にもかかわらず、誰ひとりとして「あんどろトリオ」で好きだったエピソード、思い出のあるストーリーを語れる人がいないのだ。とにかくみんなが覚えているキーワードは2つのみ。「美少女」と「オムツ」しかない。それも当然である。毎回オムツしか履いていない（いや、オムツすら履いていない）ほぼ全裸の少女が、友達、先生、お化けに、妖怪、時には宇宙人にまでいたずらされ、そんな変態行為にも「いや〜ん」「ヘンタイ♡」と、「まいっちんぐ！」でうまく対応し、最終的にはみんなハッピー…という、説明していても内容が全く頭に入っていない、とんでもないストーリーがほとんどである。

このような認識が、あなた個人だけの感覚でないことが理解できるエピソードを紹介しよう。

連載当時の「あんどろトリオ」を紹介した記事、1982年の『週刊朝日』5月14日号のロリコン特集には『あんどろトリオ』は市民権を得た最初のロリコンマンガだ」と紹介されている。さらに「これはもう美少女を通り越した美少女漫画だ。主人公のつかさちゃん（推定年齢三、四

歳のロボット)がオムツをつけているのだ。ストーリーは特にない。」と述べられている。そう、ストーリーは特にないのだ。しかし重要な点はここではない。なぜなら、主人公のつかさちゃんつかさちゃんは小学四年生(9〜10歳)で、しかもロボットではなく人間である。この記事を書いたライターですら、マンガの内容を正確に読み取れないほど「あんどろトリオ」にはストーリーはなく、内容が全く頭に入っていないマンガなのだ。ライターは「あんどろトリオ」というタイトルから、登場人物を勝手にアンドロイドと勘違いしたのかもしれない。

これは今でも勘違いをしている人が多いが「あんどろトリオ」の「あんどろ」は「アンドロイド」の略語ではない。内山亜紀は特に作品名にはこだわりがなかったため、タイトルは編集長任せでいつの間にか決まっていたそうだ。編集長は、当時人気だった小林まことの学園青春マンガ『1・2の三四郎』(講談社)のような数字が入った語呂のいいタイトルが良いと考え、「1・2・3」をフランス語にして「あん・どう・とろあ」となり、最終的に「あんどろトリオ」に落ち着いたそうだ。作者もいい加減ではあるが、編集もそんなものである。

少し脱線したが、『週刊朝日』の記事、実は当時のロリコンブームを多少問題視した批判記事でもあった。確かに「あんどろトリオ」のような、全裸な少女がただいたずらさせるだけのマンガが、当時(1982年)の少年コミック誌で連載されて問題なかったのだろうか。かつて永井豪の『ハレンチ学園』(集英社)



『1・2の三四郎』1巻
(著：小林まこと 発行：講談社)

がPTAなどからのクレームを受け、マンガ規制の槍玉にあげられ、作者自ら作中内で「ハレンチ大戦争」を起こすなどの騒動にまで発展した事件があったが、不思議なことに「あんどろトリオ」にはそのようなクレームがほとんどなかったという。このことに関して、内山亜紀本人も「あまりにもバカバカしいマンガなので、クレームを入れる気にならなかったんじゃないですか」と笑い飛ばしている。確かに、これほど話が入ってこない作品を批判するのは難しい。『あんどろトリオ完全復刻版』の本編を読んで、この解説を読んでもくれている読者なら、この感覚はなんとなく理解していただけると思う。この作品にクレームを入れる方が逆におかしいのではないか、と思うほどのくだらなさだ。しかしだ、つまらなくて話が入ってこない作品であれば、こんなに多くの人の心に長い間留まっているはずがない。内山亜紀の描く圧倒的に存在感があるヒロイン、つかさや他の美少女たちが、当時の青少年たちにどれだけの輝き、強烈なインパクトを与え、そして罪悪感や新たなフェチを刻み込んだかは計り知れない。

「あんどろトリオ」の魅力をもう少し解説しよう。つかさちゃんもそうだが、内山作品のヒロインには、名前と年齢、あと少し細かいバックグラウンドが与えられることが多い（ただしオムツは義務）。それに比べて他のキャラクター、特に男たちの設定はほぼないと言ってもいい。あんどろトリオの男性二人の設定は、発明好きの「センパイ」と「少年」でしかなく、ヒロインを中心に動いてくれればい



『ハレンチ学園』1巻
(著：永井豪 発行：集英社)

いぐらいのザコキャラであって、モブなのである。あくまでヒロインをかわいく魅せるための引き立て役であり、そして読者なのだ。多くのヒロインが読者をおもてなしするファンタジー亜紀ランドの物語であり、その中でみんなが楽しみ、みんなが幸せになれる空間として存在しているだけで、そこにストーリーは必要ない。誰も傷つかず、悩まず、みんなが幸せに過ごせる空間であり、なにより著者自身もその夢の国の住人として存在しているのだ。そういう意味では『あんどろトリオ』は、このファンタジー亜紀リゾート（オムツがチケット）の中の少年誌エリアではない。他のエリアには、多少大人向けのSFウエスタンランドや、お色気アドベンチャーランドもあるだろう。内山作品は、エロマンガであろうと少年誌であろうと地続きの世界なのだ。

80年代、エロマンガ誌と一般コミック誌の社会的格差はとてつもなく大きく、エロマンガがまだ三流エロ劇画と呼ばれていた時代でもあった。それゆえに、早く底辺から抜け出し、一般誌に成り上がりたいと考えていた作家も少なくはなかっただろう。そんな時代に、内山亜紀はエロと少年誌の間に高い段差を作らず、ひとつの内山亜紀ワールドとして全てを取り入れてしまったのだ。その証拠に内山亜紀は『週刊少年チャンピオン』の連載と同時に、今まで受けていたエロ劇画誌での連載を一つも断ることもなく並行して続け、アシスタントなしで月に最大12誌以上の仕事をこなした（最高月産ページ数276ページ）と言うから、そのエロ魂は尋常なものではない。さらにこんな逸話も残っている。

ある日、内山亜紀は秋田書店の名物編集の壁村耐三から、依頼を受けているエロマンガ誌での仕事を全部断って、秋田書店の専属になってくれと頼まれたそうだ。壁村は、エロマンガ誌

での原稿料を全部秋田で支払うとまで言ったが、内山亜紀はその申し出を断ったという。内山亜紀は頼まれたらあまりノーとは言えない性格ではあったが、自分のアイデンティティーを捨ててまで少年誌で仕事したいとは決断できなかったのではないだろう。それほどまで、エロを大切にし、自分のワールドを壊したくなかったのかもしれない。

しかしながら、さすがに少年誌でエロマンガレベルのエロを表現するには無理があったのではないだろうか。内山亜紀は後にファンムック『亜紀ファンタジー』（司書房）の「内山亜紀の少年誌エロマンガの描き方」と言うミニコーナーで、そのことについて解説している。少年誌での自分ルールとして、少女の股間にスジを描いてはいけない（ただし、オムツの上からならOK）、いやらしい場面にはギャグを入れて中和しなくてはいけない、エロい擬音は入れてはいけない、と説明している。内山なりの配慮はあったわけだ。その表れの一つなのか、今回復刻版の資料作成の過程で雑誌と単行本における、おもしろい加筆部分がいくつか明らかになったので2つほど紹介したいと思う。

「ジャッキー・つかさ!の巻」の回では、単行本収録時、つかさちゃんの股間に新たに「LOVE」という文字が追加されていたのだ。この表現は、内山亜紀がしばし行う技法で「LOVE修正」と呼ばれている、自主的に行っている股間修正法であ



右が雑誌掲載時、左が単行本掲載時の状態。単行本では新たにつかさちゃんの股間に「LOVE」の修正が加筆されている。

る。スジがないと言っても、ツルペタなのも問題ありかと編集部が忖度したのか、内山本人が少年誌に配慮して加筆したのかは、当の本人も忘れていて不明だが、この回以降雑誌でも「LOVE修正」が入るようになったようだ。

他に、「ロボット、つくします!!の巻」の回では、表紙の女の子がメガネっ子に変更されている(チョーカーも加筆されている)が、こちらは配慮ではなく、「こっちの方がなんとなくカワイイから」という内山亜紀の単なるワガママである(笑)。

「あんどろトリオ」は、期間にして1年に満たない短い連載であった。内山亜紀が連載の終了を告げられたのは、最終回の4週間だったそうだ。さすがに連載開始直後の強烈なインパクト、新鮮さだけでは読者をひきつけられなかったのかもしれない。しかし、エロマンガ雑誌で活躍、ブレイクしたロリコン・マンガ家が、突然、『週刊少年チャンピオン』で連載、しかも、内容がほぼエロマンガという暴挙を働いたのだ。いや、後の日本のサブカルチャーに大きな影響を与えたという意味では、この連載は奇跡だったのかもしれない。

『週刊少年チャンピオン』の編集長の英断と、80年代はじめに勢いを増したロリコン・ブーム、伊藤つかさのデビューを含む空前のアイドルブーム、そして、こんな変態オムツマンガを笑って受け入れてくれた時代の寛容さ、このような多くの偶然が重なることで結実したのが「あんどろトリオ」だったのだ。まさに奇跡的な出来事であったことは間違いないだろう。



右が雑誌掲載時、左が単行本掲載時の状態。雑誌掲載時にはなかったメガネとチョーカーが描きたされている。

内山亜紀単行本データ集 完全版

●コミック ◇再版本

■1980年6月25日『気ままな妖精』久保書店／内山亜紀 ■1980年12月15日『愛しの妖精』久保書店／内山亜紀 ■1981年4月25日『夢みる妖精』久保書店／内山亜紀 ■1981年6月10日『リボンと妖精』久保書店／内山亜紀 ■1981年10月1日『少女人形』久保書店／内山亜紀 ■1981年11月14日『つらいゼジュリー』双葉社／画：野口正之／原：やまさき十三 ■1982年2月3日『ロリコン・パーティー』サン出版／内山亜紀 ■1982年6月1日『あんどろトリオ1』秋田書店／内山亜紀 ■1982年8月1日『あんどろトリオ2』秋田書店／内山亜紀 ■1982年8月1日『ロリコン・ラブ』久保書店／内山亜紀 ●1982年10月15日『バーバミッドナイト』東京三三社／絵：内山亜紀 ■1982年11月25日『プリティ天使』東京三三社／内山亜紀 ■1982年12月10日『あんどろトリオ3』秋田書店／内山亜紀 ■1983年1月10日『恋する妖精』久保書店／内山亜紀 ■1983年1月15日『オビョーキ少女』一水社／内山亜紀 ■1983年3月15日『つかさの秘密』辰巳出版／内山亜紀 ■1983年7月10日『シャボン玉ホリデー』久保書店／内山亜紀 ■1983年7月15日『あんどろトリオ4』秋田書店／内山亜紀 ■1983年9月20日『つかさの青い体験』辰巳出版／内山亜紀 ■1984年1月15日『おジャンプ少女』一水社／内山亜紀 ■1984年1月25日『ラプリー天使』東京三三社／内山亜紀 ■1984年1月29日『ニャンニャンプリンセス』久保書店／内山亜紀 ■1984年6月10日『今日子のソフトクリーム』辰巳出版／内山亜紀 ■1984年6月25日『ロリコンABC』久保書店／内山亜紀 ■1984年8月1日『あんどろトリオ』久保書店／内山亜紀 ■1984年11月04日『ロリコン・ランド』サン出版／内山亜紀 ■1984年12月15日『アキちゃんのロリータ観音』一水社／内山亜紀 ●1984年12月25日『内山亜紀の女の子のゴ大研究』シンデレラ／絵：内山亜紀 ◇1984年12月25日『(新装版)ロリコン・ロック』東京三三社／内山亜紀 ■1985年2月10日『ロリコン・アーミー』久保書店／内山亜紀 ■1985年4月30日『内山亜紀の恋の練習問題』シンデレラ／絵：内山亜紀 ■1985年4月30日『夕貴のロリコンショック』辰巳出版／内山亜紀 ■1985年5月15日『おむつッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1985年7月1日『ぶちぶち・キッズ』司書房／内山亜紀 ●1985年9月15日『亜紀ファンタジー』司書房／内山亜紀 ■1985年12月15日『微笑少女フレンド』一水社／内山亜紀 ■1985年12月20日『つかさの快感物語』辰巳出版／内山亜紀 ■1986年1月26日『美少女れもん』東京三三社／内山亜紀 ■1986年3月10日『女子中学生』久保書店／内山亜紀 ●1986年6月15日『ロリータ・ハンティング』なつてつたて、桃色トマツト／東京三三社／絵：内山亜紀／作：細井正利 ■1986年7月25日『いたずらッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1986年7月25日『気分はハードボイルド』秋田書店／内山亜紀 ■1986年11月25日『おませッコ』東京三三社／内山亜紀 ■1987年1月1日『おしゃぶりッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1987年2月20日『ロリちゃん人形』司書房／内山亜紀 ■1987年3月25日『ベビビ・ラブ』東京三三社／内山亜紀 ■1987年4月1日『遊星少女漫遊記』久保書店／内山亜紀 ■1987年6月15日『内山亜紀のSFXもどき』大陸書房／内山亜紀 ■1987年7月1日『夢見るショーツ』辰巳出版／内山亜紀 ■1987年8月25日『ロリコン騎士』東京三三社／内山亜紀 ■1987年10月05日『お医者さんゴッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1987年12月5日『めざめッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1987年12月5日『脱がせッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1988年3月1日『ロリコン・ドクター』ミリオン出版／内山亜紀 ■1988年3月25日『エンゼル少女隊』東京三三社／内山亜紀 ■1988年5月15日『美少女剣士クミコ!』辰巳出版／内山亜紀 ■1988年7月15日『身体検査ゴッコ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1989年1月25日『ロリータ遊戯』東京三三社／内山亜紀 ■1989年1月25日『ロリコン図鑑』東京三三社／内山亜紀 ■1989年2月25日『とらわれのお姫様』久保書店／内山亜紀 ■1989年3月20日『ロリロリッッ』ミリオン出版／内山亜紀 ■1989年4月25日『べっぴん親衛隊』東京三三社／内山亜紀 ■1989年6月15日『美少女天国』集英社／内山亜紀 ■1989年7月1日『美女地獄』ワニマガジン社／内山亜紀 ■1989年7月20日『体験(つづ)』ミリオン出版／内山亜紀 ■1989年8月5日『ニャンニャン少女』コスモ出版／内山亜紀 ■1989年11月25日『美少女グルメ倶楽部』久保書店／内山亜紀 ■1990年4月25日『もぎたて天使』東京三三社／内山亜紀 ■1990年5月20日『ドキドキッッ』ミリオン出版／内山

監修を終えて

稀見理都

内山亜紀先生の『あんどろトリオ』の生原稿を初めて直接見た時感じたことは「この美しい原稿を、この状態のまま皆さんに見てほしい」でした。マンガの原稿なのにそれはまるで、1枚の完成されたイラストをギャラリーで鑑賞しているような感覚だったのです。それゆえに、この完全復刻版の監修を引き受けたとき、この1冊で『あんどろトリオ』、さらにはその作者、内山亜紀という作家を知るための図録として作りましょう、と提案しました。

内山先生は数多くの作品を発表し単行本として出版しているのですが、残念ながらカラー原稿で描かれていたものは、ほとんどがモノクロ化されているのが現状です。『あんどろトリオ』の秋田書店版や、スコラ版も同様です。私はこのような状況を知るにつれ、なんで、先生の一番の魅力を押し出していないんだ、いたい、今までの編集たちは内山先生のどこを見ていたんだ、という不満が自分の中にどんどん溜まっていくのを感じていました。

今回、完全復刻版として目指した点は3つ。まず、『あんどろトリオ』は一度、スコラ版として復刻されていますが、その時点で多くの加筆、修正箇所が存在しています。しかも、生原稿に直接描き加えられたものも多く、それを秋田書店版の単行本の状態

に復元することを目指しました。もう一つは、『あんどろトリオ』のマンガだけではなく、『週刊少年チャンピオン』に連載された当時の記録も含めて載せることで、当時の時代背景や、『あんどろトリオ』が及ぼした影響なども一緒に理解できるよう心がけました。そして一番の目標が、当時カラー原稿として掲載された作品を全てカラーで復刻させることでした。しかし、ここには一つ問題がありました。

昔のマンガにはカラーといってもフルカラーを示す4色原稿と、色数は落ちますがモノクロよりは少し豪華な擬似カラーともいえる2色原稿の2種類の原稿があります。しかし、内山亜紀先生の2色原稿は、実際2色以上に色を使って描かれていることが多く、今回の復刻で、この色数を当時掲載された減色された状態を再現すべきか、先生の描かれた2色以上ある状態で再現すべきか話し合いが行われました。内山亜紀先生の意向を踏まえた議論の結果、先生の描かれた時の状態をそのまま載せようとなり、ある意味今回の復刻版は、復刻以上の読者が初めて見る『あんどろトリオ』になっているかもしれません。

このように、今回の『あんどろトリオ完全復刻版』を制作する作業は、自分にとって内山亜紀作品の魅せ方として感じていた不満を一つ一つ取り除いていく作業だったのかもしれない。しかし、作業はどれも本当に大変で、結果的に自分を苦しめる作業ばかりになってしまったが、なんとか今までにない「図録」を意識した復刻版マンガを作ることができたと自負しています。本編のマンガ以外のページが50ページを超えろとは、いや〜ほんと疲れました(笑)。

あんどろトリオ 完全復刻版

電子版特別特典





あんころトリオ

LESSON Ⅰ





定価(本体4500円+税)
太田出版

